

社会思想におけるリプロダクション

報告者：鳴子博子（中央大学） 後藤浩子（法政大学）

討論者：浅井美智子（大阪府立大学） 梅垣千尋（青山学院女子短期大学）

世話人：後藤浩子（法政大学）

本セッションでは、二本の報告と討論者二名からのコメントと問題提起、そして質疑応答が行なわれた。参加者は約 20 名。

1. 「ルソーのリプロダクション論と 18 世紀：授乳と戦争」報告要旨（鳴子博子会員）

ルソーの『エミール』における「女性＝授乳・男性＝戦争」という生物学的根拠に基づく性別役割論は、従来本質主義と批判されてきたがどのような社会的背景から生じたのか。J.ヒューバーの『ジェンダー不平等起源論』（2007）における母乳育が女性の地位に与えた影響の研究やJ.ジュリスのフランス医療史研究は、18 世紀の出産における高い死亡リスクと、このリスク低減を口実とした、従来産婆が担っていた出産の現場への外科医の進出の動きを伝えている。また、S.ハーディーは『マザー・ネイチャー』（1999）において、1780 年のパリで生みの母親による授乳で育った新生児は 5%にすぎず、他は乳母によって生家で、もしくは農村の乳母の家に預けられて育ち、25%は孤児院に送られて育っていたことを示している。ヒューバーは、女性の長時間労働と引き換えに母乳育が阻害されたのは、生産力が増大し、富の格差も拡大した近代に入ってからであるとも指摘している。

ルソーはこのような当時の現状を過度の人為であり自然に反した習慣であると見なし、絶対的性差という自然を基準とすることで、そのような習俗におけるジェンダー関係を変革し人間と社会を再生するプログラムを考案した。その際、女性によるわが子への授乳という母親の義務を、ルソーは第一歩にして最重要の環であると捕らえた。なぜならば、母の授乳と養育こそ母と子と父の関係を築き、「小さな祖国（パトリ）」である家族という最小の社会を存在させるものだからである。ルソーにとって男性と女性の理性は異なった特性をもち、二つが補完しあって始めて道徳的人格が完成されるものと捉えられている。したがって、「小さな祖国」は、女性がそこでの守り手として絶えず男性に働きかけることで、男女一組の道徳的人格が完成される場なのである。このような完成された人格をもって、男性は代表者として「大きな祖国」の市民となり、立法に直接参画し、一般意志を発見する。ルソーは、道徳国家としての「大きな祖国」実現の基盤が小さな祖国である家族にあると見ている。しばしば家父長制国家論と解釈されるルソーの国家論だが、以上のように見てくると、生命を生み育むリプロダクションという目的のために、「小さな祖国（家族）」には母、「大きな祖国（国家）」には父というように、二段構えの守り手を配置した家族・国家構想である「創り出す 2 つのパトリ論」と捉え直すことができるのではないだろうかと提起したい。

2. 「18 世紀のリプロダクション思想：パーク、ウルストンクラフト、ゴドウィン、

マルサス」報告要旨（後藤浩子会員）

バークの『人間の権利の擁護』の公刊によって、ウルストンクラフトは最も初期にフランス革命をめぐる論争に参戦したが、バークに対峙した彼女の家族批判と人間の再生産の哲学は注目に値する。また、そこで浮上した家族と人間の再生産の問題が、今度はゴドウィンの議論の中でラディカルな帰結を与えられ、これによってマルサスが市場という商業社会の調整機構が人間の再生産に対しては必ずしも機能しないことを自覚するに至るといふ流れも生じた。

バークの家族と愛の情念の議論は、人間の「選択」と「愛着」という行動への着目から始まったルソーの議論をコンテクストとしている。欲望をある一つの対象に決定し固定したり、その対象により多くのエネルギーを傾注させたりする精神的な恋愛感情は「社会の慣用から生まれた人工的な感情」であり、それは「ある種の価値または美の観念」と「比較」、つまり「趣味」に基づいている、というルソーの議論を受けて、バークは、人間は性的欲望を抱く相手を選択するという事実から、性欲と選択という社会的な性質が混じった情念を「愛」と名づけ、その愛の対象は「性がもつ美」であるとする。家族という慈愛に満ちた自然社会は、歴史的にこのような文化の衣によっても包まれてきたのであるが、この衣を破壊したとして、バークはフランス革命を弾劾した。

これに対し、ウルストンクラフトはバークの美学的議論を批判し、創造主／被造物の枠組みの中でリプロダクションの主体としての女性の存在と情念を描いた。彼女はそれまで語られてきた生殖を包む人為的な衣、つまり意図的に「柔弱」な存在の衣を纏わなければ主体化できないという、女性が置かれた構造に対して真っ向から異議申し立てした。彼女の世界観の基点は万物の創造主としての神である。そして、そこから彼女は神によって創られたものとしての自己認識を導き出し、そこに自分自身に対する崇敬の根拠を置く。神という生命と至福の源泉の分身として創造主との関係の中に自分を置くことこそが、ウルストンクラフトにとっては愛であり、根源的な他者との共存なのである。命を与えたあなたはどこにいらっしゃるのでしょうか—この問いから、創造者という根源的他者との絆を手繰り寄せる。この創造者と被造物の関係は、ウルストンクラフトの文学作品の中では母と子の関係にも重ねられる

ところが、同じ家族制度批判でも、ゴドウィンの立脚点はウルストンクラフトとは大きく違っている。彼は完全な自律的独身者としての人間像に基づき、情念論と反結婚・反家族論を展開した。欲望と知性の二項対立を廃して、欲望には知性による計算が内在していると新たに概念規定し、結婚という占有の廃止に伴う競争心と嫉妬心の解消によって、情念の強度が緩和されうると予想したことによって、彼は言語を用いてさえ人間はルソー的な未開人の独立状態に帰還しうることを論証したのである。さらに彼は、父の名つまり家名の価値は貴族政の産物にすぎないとし、一組のカップルによる排他的な性交渉がなくなることによる「父」の廃止を、歓迎すべき帰結であると位置づける。個々人は家族を形成せず独身者として生涯を生き、性交渉も「種が繁殖させられる」ことが正しいという各自の理性と義務の判断ゆえに行われるのである。このように彼の完全に自律した人間＝独身

者という人間像とウルストンクラフトの被造物としての人間像の間には大きな懸隔がある。
(時間の制約で、マルサスについての報告は省略された。)

3. コメントと質疑応答

以上の二つの報告に対し、討論者であった浅井美智子会員から以下のような問題が提起された。18世紀に女性達が自分の出産によって乳という資源をえて、乳母業で賃金を得ることで、授乳という母親業が社会的広がりをもって行われていたことへの注目は重要である。しかし、鳴子報告が示すようにルソーの「小さな祖国＝家族」が真のパトリ実現のための構想の基点であったとしても、ルソーが唱えた母の義務は、ルソーに学んだエレン・ケイによって「母性」として捉えられ、例えば日本においても平塚らいてう等に受容され、授乳が国家に貢献する社会的な重要性をもつものと主張された。ルソーのいう授乳によって形成される母そして家族は、その後ブルジョワジーによって実践され再生産装置として普遍化したのではないか。このような帰結をどのように捉えるべきか。また、ルソーにおいて、授乳する母と戦争に行く父の性的結合を促すもの、つまり「小さなパトリ」において二つの魂を結びつける性愛はどこにあるのか。また、後藤報告にもあるように、ルソーにおいては、母親と子供と父親の定住から言葉の使用が生まれ、比較に基づいた人工的な感情として恋愛感情が生まれる、とされているが、では最初に定住し始めた男女はどのように特定の相手を選択したとルソーは考えているのか。

また、もう一人の討論者である梅垣千尋会員からは、ウルストンクラフトの論点の一つには、男性論者が、女性とは何かとか家庭での女性の役割とは何かを論じることの不当性の告発があったのではないかという指摘がなされた。ウルストンクラフトにとっては、それは女性を飼ひ慣らし、その精神を拘束することであり、むしろ必要なのは女性が家庭を取り仕切る場合にも心身両面の強さが必要であるというような実際の経験を語ることであった。ちなみに母親自身による授乳についてはウルストンクラフトも推奨しており、彼女もルソー同様、母親の役割を重視している。さらに、リプロダクションの思想史を描くのであれば、ウルストンクラフトの同時代の教育や文学の女性著述家も注目に値するという点も指摘された。また、梅垣会員は、リプロダクションについて語る場合は個々の思想家のプライベートな経験が議論に表出する機会が多いので、そのような部分をどう扱うかを考慮する必要があるのではと問題提起し、例として、性交渉を各自の理性と義務の判断に基づかせるべきだとしたゴドウィンが、日記に自分の性交渉の記録をつけていた事実を紹介してくださった。

また、水田珠枝会員から、鳴子報告は『エミール』に基づいてのものだが、『人間不平等起源論』におけるルソーは、男女の差異が歴史の一時点では不平等を生み出すにせよ、性差が絶対的なものであると捉えてはいなかったのではないかと、男女の平等の実現可能性を示しているのではないかとという質問が出された。

セッションでは時間の関係で以上のような重要な問題提起や質問を十分討論せず終わらざるを得なかった。次年度のセッションでは、上記の論点を引きついで会場で討論したい。

また、これは会場から出た質問でもあるが、フェミニズムやジェンダー論とリプロダク

ション論の関係を明らかにすることも今後為すべき課題であると思われる。